

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長

令和 8 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 3 号を発表したので送付します。

令和 8 年度農作物病害虫発生予報第 3 号

令和 8 年 6 月 3 日
徳 島 県

I. 普通作物

早期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5 月第 6 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も発生を認めていない)。なお、補植用置き苗にも発生を認めていない。
- (2) 高松地方气象台が 5 月 28 日に発表した 1 か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生を認めたら防除を行う。

普通期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年より早い(前年よりやや早い)
発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5 月第 6 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 25.0%と、平年(1.3%)に比べて高いが、発病度は 0.3 と、平年(0.1)並の発生である。なお、補植用置き苗には発生を認めていない。
- (2) 高松地方气象台が 5 月 28 日に発表した 1 か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生を認めたら防除を行う。

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、25株当たり成虫数が0.4頭と、平年(28.2%、0.9頭)に比べてやや低かった。

(2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生状況に注意し、薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤による本田防除を行う。

(2) 活着が悪い水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

サツマイモ

イモキバガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が14.3%、被害度が0.4と、平年(9.9%、0.4)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期に、薬剤を散布する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が78.6%と、平年(50.5%)に比べてやや高いが、寄生株率は10.3%と、平年(9.1%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が64.3%と、平年(42.2%)に比べてやや高いが、寄生葉率は5.7%と、平年(3.7%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 葉裏に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 摘果期に薬剤防除を行う。

(2) 薬剤耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が29.7%、寄生新梢率が3.3%)。

(2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類(令和8年5月13日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

(1) 5月の予察灯調査において、第1半旬から第6半旬までの誘殺数は、勝浦町では、ツヤアオカメムシが1,296頭と、平年(215頭)の6.0倍、チャバネアオカメムシが981頭と、平年(103頭)の9.5倍誘殺された。また、上板町では、ツヤアオカメムシは872頭と、平年(189頭)の4.6倍、チャバネアオカメムシは785頭と、平年(57頭)の13.9倍誘殺された(表1)。

(2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の山林や雑木林から成虫が飛来してくるので、園内を巡回し、飛来を確認したら早急に防除を行う。

(2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
5	1	109	1	25	154	2	31
	2	131	0	17	90	1	31
	3	220	0	42	140	1	44
	4	461	0	68	205	2	38
	5	340	0	32	184	0	18
	6	35	0	32	99	0	28
6	1		0	28		1	9
	2		0	57		0	11

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2026年	2025年	平年	2026年	2025年	平年
5	1	96	0	8	50	9	7
	2	129	0	7	209	0	5
	3	170	1	21	117	1	10
	4	234	1	23	122	8	10
	5	338	0	26	98	0	11
	6	14	0	18	189	0	13
6	1		0	6		1	3
	2		0	7		0	6

ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 県内のナシ園7地点に設置したナシヒメシンクイのフェロモントラップへの4月における平均誘殺数が326頭と、平年(99.1頭)の約3.3倍であった。また5月5・6半旬の誘殺数は48頭と、平年(14.0頭)の約3.4倍となった(図1)。

(2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 性フェロモン剤を設置することで、雌雄間の交信を攪乱して、次世代幼虫の密度を低下させる。
- (2) 薬剤散布は6～8月を重点に3～4回実施する。

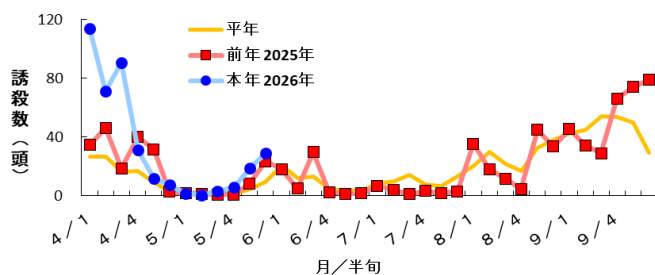


図1 ナシヒメシンクイ フェロモントラップ誘殺数推移
※鳴門市、松茂町の7地点平均

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が28.2%、発病株率が6.2%)。

(2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が17～23℃の時、孢子飛散量が増加し蔓延しやすい。
- (2) 多発すると防除効果が劣るので、薬剤の予防散布や発生初期の防除に重点をおく。
- (3) ネギは薬液が附着しにくいので、展着剤を加え、散布する。
- (4) 肥料切れして草勢が衰えると発病が助長されるので、肥培管理を適切に行う。
- (5) 被害葉は伝染源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が66.7%と平年(94.1%)に比べて低いが、被害度は10.3と、平年(9.0)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、生育初期の被害を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が47.0%、被害度が1.4)。
- (2) 高松地方気象台が5月28日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、生育初期の被害を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL：<https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。